

学校経営方針（中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>全教育活動をととして、生徒・教職員がともに成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p> <p><b>1 学力充実と希望進路の実現</b>                      学科・類・類型の特色を活かし、創意工夫した教育活動を展開する中で学力の充実・向上と希望進路の実現をする。</p> <p><b>2 生徒指導の充実</b>                      道徳教育を推進する中で、一人一人が集団社会を構成する一員としての意識の醸成に努める。</p> <p><b>3 特別教育活動の充実</b>                      部活動・生徒会活動、ボランティア等の自主活動を活発にし、生徒の体力や情操を育む。</p> <p><b>4 開かれた学校づくり</b>                      保護者・地域・小中学校・関連諸機関との連携を大切にし、関係者評価を生かし信頼される学校づくりに努める。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「アカデミックミネ」を実施し、校内コンテストの開催、資格取得の促進、キャリア教育の充実、地域と連携した職業教育の充実などの取組により、生徒の意識改革や意欲向上に繋がった。また、京都数学コンテストでの優秀賞受賞、「京のチカラ・明日のチカラ」での知事賞等の受賞など挑戦する意欲を喚起し、潜在力を発揮する生徒を育てることができた。</li> <li>○ 特別指導措置件数の減少、遅刻者の減少ができた。</li> <li>○ 学校全体に落ち着いた雰囲気が出てきた。</li> <li>○ 国公立4大合格者数は、延べ49名（実数46名）と過去最高となった。</li> <li>○ ホームページを充実し、年間4万件のアクセスを達成し、情報の積極的な発信ができた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭学習時間の確保は生徒への動機付け、意欲とも関係しており、今後、授業改善やフロンティア校の取組の中で意識改革をより推進しなければならない。また、週末課題等の取り組みをより充実させ、家庭学習時間の確保を指導する必要がある。</li> <li>○ 交通マナーや社会的マナーの改善、身だしなみの向上は引き続き粘り強い指導が必要である。</li> <li>○ 進路希望実現に向けた校内の連携体制の一層の充実が必要である。</li> <li>○ 学校公開では地域住民・保護者に授業公開をしたが、参加者は非常に少なかった。年間の取組改善が必要である。</li> </ul>	<p><b>1 生徒の学力向上を目指す指導の充実</b>                      授業規律の徹底を図るとともに、家庭学習を充実させ、授業改善を推進する。</p> <p><b>2 学力向上フロンティア事業の推進</b>                      学力向上フロンティア校として、アカデミックミネの取組を継続し、生徒が様々なものに挑戦する意欲を高め、学習に対するモチベーションを高める。系統的な進路指導を進め生徒の職業観・勤労観を育成する。</p> <p><b>3 積極的な生徒指導の推進</b>                      人権意識の涵養を基軸にしながら、個々の生徒が社会規範・モラルを身につけるとともに、互いを思いやることのできる教育を重視する。（校則の遵守、身嗜みの向上、交通マナーや社会的マナーの改善を行う。）</p> <p><b>4 特別教育活動の充実</b>                      部活動やボランティア活動、生徒会活動の一層の活性化を図り、学習との両立指導を強化する。</p> <p><b>5 開かれた学校づくりの推進</b>                      ホームページや「峰高だより」の発行、峰高展や峰高祭などの行事により、保護者や地域への情報発信を行い、オープンキャンパスや出前授業などを通じ小中学校との連携を深める。</p> <p><b>6 地元産業界との連携の推進</b>                      「京都北部地域産業担い手育成事業」を活用し、地元産業界等との連携強化と、専門学科教育の充実・改善を進める。</p>

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
組織・運営	学校経営の重点を達成するため体制を充実する。	学力向上フロンティア事業の推進、道德教育推進会議等の会議を充実させ、目標を見えやすくし連携する。	B	B	B	連携についてはほぼできた。目標を見えやすくする工夫が必要である。
事務部	耐震補強工事の円滑な推進	施工業者、教職員、地域との連携を密にし、安全の確保を行う。	C	C	C	耐震補強工事が日常業務に大きく影響した。全教職員が工事日程等を確実に把握し、計画的に業務をこなせるような工夫が必要であった。
	正確で迅速な事務処理の実施	予算執行の早期有効活用に努める。 ----- 適確で迅速な窓口業務、修学援助に努める。	B C	C		
庶務部	P T A活動と学校教育活動との連携を推進する。	連絡文書を確実に保護者へ届けるため、保護者連絡用封筒の利用をすすめる。 ----- 総会（面談を含む）、学校祭、P T A事業などへの積極的参加を促す。	B B	B	B	保護者への連絡徹底のために、昨年度同様連絡用の封筒を活用したが、封筒の返却が遅れることがあった。今年度よりメールの配信を行ったが、最初は、メール配信の方法が分からずうまくいかなかった。次年度は、しっかりと配信できるようにしたい。
	校内活動等の情報発信を年間を通して行う。	峰山高校お知らせメールニュースの配信に努め、その利用をすすめる。	B	B		
教務部	学力向上に向けた取組を強化推進する。	学力向上フロンティア事業を実施し、生徒の学習意欲やチャレンジ精神を引き出す。教科指導力を高める研修体制を確立し、公開授業週間で積極的な交流を図る。家庭学習時間1時間未満の生徒を2割以下にする。	B C C	C	C	フロンティア校として様々な事業を実施し、参加者も増やせたが、学力向上の数値指標には至らなかった。授業を第一とした教科指導力向上が学力向上には不可欠であり、その気運を高める研修方法を工夫していきたい。即時性に課題は残るが、生徒部と連携しながら生徒の様子を数多く発信できた。出前授業は小学校を中心に23回実施でき、地元小学校からのニーズとして定着できている。
	積極的な広報活動と開かれた教育活動を展開する。	峰高ホームページを常時更新し、峰高の教育活動を積極的に広報する。小中学校へ「出前授業」を行い、地域の子ども達の教育に貢献する。	A B	B		
生徒指導部	全教職員一致した生徒指導体制づくりをすすめる。	教職員への全教職員一致した生徒指導体制づくりの啓発  担任・教科担任を中心とした生徒指導体制づくりをすすめる。	C	C	C	以前より落ち着いている分、生徒への指導の機会が少なくなり、ルール・きまりを守らせる指導がおろそかになっている。全教職員が危機感を持って指導体制を作っていかなければならない。学年部には、まず学年で動いて頂いたり、生徒に対して、根気強く指導をして頂けた。  生徒会の立ち上げを9月に戻し、良いスタートが切れた。自主的な取り組みが出来るよう指導していきたい。クラブ活動の時間の確保が難しくなり、抜本的な解決の提案が必要である。教務部と協力して、昨年よりは継続し
	特別活動の充実	生徒会活動を充実させる。  クラブ活動を活性化させる。	C	C		
	広報、情報提供活動の充実	生徒活動の外部へ向けてのアピール活動、				

		生徒への情報発信を充実させる。	B	B	て情報発信が出来た。課題がある場合には、全校集会、全校放送などで啓発することが出来た。
進路指導部	希望進路の実現	就職希望者全員を内定させ、フリーターをゼロにする。 国立天合格者延べ50名を達成する。	A	B	就職では、早期から計画的に指導し、ほぼ全員内定を果たした。一方で、途中から就職に変更する生徒が多く、3年生の全員三者面談が是非必要である。各種講演会は、講師に恵まれ概ね良好だったが、進路だよりなど、1・2年生に対する適時の進路情報提供を一層強化する必要がある。
	キャリア教育の推進	学年に応じた職業観・勤労観を育成する。 進路だよりや卒業生の活用などを取組を通じて、生徒の進路意識の高揚に努める。	B C	C	
保健部	心身の健康な生活について考え、実践できる生徒を育てる。	定期健康診断の結果を基に、日常より自己の健康に意識を持たせ健康課題を改善できるように指導していく。 基本的な生活習慣を確立させていく。	B A	A	定期健康診断における健診率は100%に近づき、向上した。しかし精検等の受診率が50%にも達しない項目もあり、今後の課題である。保健室への来室は、5割程度であり減少傾向が見られ、生活習慣の確立が少し伺える。ゴミをなくそう月間は、全学年ともしっかりと行え、生徒の意識は向上した。校内の安全点検については、まだ十分な取り組みができていないので、今後の課題である。
	安全な生活や環境に配慮できる生徒を育てる。	保健委員会の生徒を中心に「ゴミをなくそう月間」の取り組みを進める 保健委員会の生徒を中心に「校内安全点検」の取り組みを進める。	A C	B	
図書情報部	生徒に愛される魅力ある図書館作りに取組み、読書活動を推進する。	良質の図書を購入し、展示方法を工夫する。図書館便りや新着図書案内による広報活動を行う。多様なニーズに対応でき知的な刺激に充ち楽しく居心地の良い図書館を作る。「読書の時間」を全学年にわたり実施する。貸出図書を増やす。目標3冊/人・年	B B	B	耐震工事に伴う臨時図書館ではあったが図書館活動を維持する努力をした結果、利用者も多く一人年3冊の目標を達成した。図書購入では高校生に親しみやすい多数の本を揃えた。月一回の図書館だよりの発行、沖縄やはやぶさ等の特別展示も行った。「読書の時間」を実施し生徒にも好評であった。わらび座による音楽パフォーマンスは素晴らしく好評であった。次年度は落語会に決定した。地学室に機器を設置し大会議室の代わりにの臨時的視聴覚室にした。新たな視聴覚機器を購入し多くの利用があった。みらいネット更新など校内LAN関連の多くの業務に対応したが、セキュリティ対策など次年度に向けた取組みが必要である。
	芸術鑑賞の実施 情報機器の利用環境の整備 峰高祭ステージ企画等の支援	11月に芸術鑑賞(音楽)を実施する。また次年度の芸術鑑賞(古典芸能)を計画する。 視聴覚教室に代わる環境を工夫することも含め、情報機器が利用しやすい環境を整え教育活動を広く支援する。	B B	B	
教育相談部	心身に課題を抱える生徒の実態を明らかにし、指導・援助の体制を確立する。	学年部、保健部等の関係分掌と連携を図るとともに、定期的に教育相談会議を開く。	B	B	B ほぼ毎月定期的に教育相談会議を開催できた。引き続き、気になる生徒の早期発見に努めたい。

人権教育部	他分掌と連携を強め、自分を成長させ、他人を思いやり、よき集団や社会の形成者の育成を目指す。	他分掌の行事と同じスローガンを用いて行事を行う。	B	B	B	スローガンの意図と統一使用については、徐々に浸透しつつある。生徒の中にスローガンの意図をより浸透させ、全校が同じ目的を共有できるよう更に努力する必要がある。通信については課題が残る。
	偏見や差別を見抜き、それらを克服しようとする力を養う。	人権LHR、講演会、人権通信などを企画する。	B	B		
第1学年部	規律ある生活を通して、互いを高め合う集団をつくる。	生徒一人一人や集団・クラスに応じた具体的目標を立て、随時点検し、その実現を援助する。	B	B	B	生徒特別指導の件数は3で、いずれも軽微な内容であった。また、全体としてもよい集団のまま過ごさせることができた。学習活動にもおおむね真面目に取り組みせ、2年次の発展的な学習内容に対応できうる力を身につけさせることができた。
	学力の伸長と自ら学ぶ態度の育成を図り、進路目標実現のための基盤をつくる。	予習→授業→復習の学習サイクルを定着させ、面談活動や進路学習等を通して進路意識の昂揚を促し、家庭学習時間1時間未満の生徒ゼロを目指す。	B	B		
第2学年部	けじめのある生活態度の育成と高き理想を求め合う集団をつくり、高校生活を充実させる。	学校祭、修学旅行や新生徒会執行部の発足などを成功させる中で、HRと学年集団への帰属意識をさらに高め、自主自律の精神を育てる。また、特別指導件数や遅刻の少ない学年づくりに引き続き取り組むとともに、制服の着こなし指導を重点事項とする。	B	B	B	諸行事を成功させる中で集団の質的向上と帰属意識を高めることができた。次年度は最高学年としての責任ある行動をとらせたい。また、指導困難な一部生徒には、課題に即したきめ細かな個別指導に引き続き努める。特に修学旅行を契機にして、進路実現に向けた意識を高揚させることができたが、具体的な学習時間の増加に十分に結びついていないという大きな課題がある。
	広く社会に目を向けさせる中で、具体的な進路目標を早期に明確化させ、進路実現に向けた学力の伸長と自己の向上への意欲を喚起させる。	進路体験を柱とする修学旅行を成功させ、学年後半には進路希望実現に向けた本格的なスタートを切らせる。	B	B		
第3学年部	各自の第1希望進路の実現	自分の目指す進路が実現するように、計画的に指導し、努力をさせる。進路希望に応じた具体的な指導を積極的に実施し、国公立大50名合格、AO・推薦入試合格率の向上、就職内定率100%を目指す。	B C	B	B	面談等を頻繁に実施して、生徒の進路希望の把握に努め、計画的に対策を立てて指導をした。第1志望の実現を目標に最大限の努力をさせた。就職内定率100%を達成できた。  1年を通じて落ち着いた学校生活を送れた。常に進路に向けての全体の雰囲気作りを自覚させ、毎日の学校生活での基本的な生活習慣が実施できた。学校業行事では、下級生の模範となって素晴らしい取り組みができた。
	最上級生として、模範となる集団の形成	学校生活全般にわたって、安心して安全な落ち着いた毎日が送れる集団を作る。学校行事等において、模範となってルール・マナーが遵守でき、質の高い取組ができる集団を作る。	B B	B		
機械システム科・産業工学科機械系統	学習意欲の向上	学習する習慣づけをする。地元を含め専門の方の協力を得てものづくりに対する知識を高める。資格試験・検定に挑戦させるとともに合格率を高めていく。	B B	B	B	インターンシップやクラフトマン講義・実習・企業工場見学等を通じてのものづくりに対する意識の向上を図ることはできたが、学校での学習意欲を向上させるところまで十分つながっていない。企業との連携は強くなったが、進路の開拓において十分な成果になっていない。資格検定試験を通じて学習意欲の向上を図る。
	進路希望の実現	1年生から専門学科の生徒として職業観・勤労観の育成をはかるとともに、関係諸機関と連携して進路を実現させていく。	B	B		

繊維デザイン科・産業工学科デザイン系統	学習意欲の向上	産業工学科デザイン系統の学習内容の精選 デザインから作品の製作・学校外の作品展に応募させるなど、ものづくりに対する意識・意欲を持たせる。	B		B	育成プロジェクトに於いて、地域のデザイナーとの交流を深める事ができた。同時に指導頂いた作品が入選したり、防犯チラシに使用して頂き地域貢献としての成果も出た。また、通常授業作品もコンテストで入選3名と成果を出した。育成プロに時間を割かれてはいるが、新系統の学習内容の検討も、継続して行っている。
	地域産業の担い手育成プロジェクトの活用	地域産業界などとの連携強化により、生徒の職業観・勤労観の育成や、ものづくりへの意識の向上を図る。	A	A		